令和６年度 社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会事業報告

～ つながり　支えあい　共に生きるまち　岡垣 ～

≪基本理念・基本方針≫

誰もが地域で安心して暮らしていくためには、個人や家族がまず自分たちでできることに取り組み、隣近所や自治会、地域の人々やボランティアなど、住民相互で助けあい、さらに公的な制度による福祉サービスと組み合わせて問題解決を図っていくなど、重層的で多面的な取組が必要です。

岡垣町社会福祉協議会は、岡垣町をはじめ関係機関との連携によって複合的な課題に対応できる体制を強化するほか、「互助」の更なる充実により、地域で問題を解決していく力や地域での支えあい・助けあいの力の底上げを目指しました。支え手と受け手に分かれるのではなく、みんなが互いに支えあいながら、自分らしく活躍できる地域を目指すため、基本理念「つながり　支えあい　共に生きるまち　岡垣」とし、地域で支えあう仕組みの創出や関係機関の連携による包括的な支援、地域の支えあい活動に関わる人材の発掘や育成に取り組みました。

≪基本目標≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

３．地域でともに生きる「環境」づくり

４．誰もが安心して暮らせる「体制」づくり

≪基本目標ごとの取り組み≫

１．お互いに支えあう「つながり」づくり

私たちの暮らしの基盤は「地域」にあり、そこで暮らす人と人とのつながりが「地域福祉」を支えていますが、日常的なあいさつや声かけ、ちょっとした困りごとを助けあうご近所づきあいは、徐々に希薄になっているのが現状です。

地域で行われる見守り活動や、ふれあいサロンをはじめとした居場所づくりなどを支援するとともに、地域の課題や困りごとを住民同士で共有して解決できるような仕組みづくりを通じて、お互いに支えあうつながりづくりを進めました。

（１）お互いさま命のネットワークの強化

【具体的な取り組み】

■お互いさま命のネットワークの推進　　■自治区の加入促進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■全ての自治区でのネットワーク活動を推進・支援し、緊急時には地域・行政と連携し

て迅速に対応しました。

■見守り協力機関の拡大を図り、さらに重層的な見守り体制づくりに努めました。

■地域の課題解決のために、必要に応じて主体同士がつながることを支援しました。

【主な事業】

１）お互いさま命のネットワーク活動の推進

自治区でのお互いさま命のネットワーク活動推進を目的に、活動に関する相談や情報提供など、自治区活動の支援を行いました。

また、社会的孤立を防ぐ身近な地域での支えあいの基盤となるネットワーク活動を推進・支援するため、地域関係者・関係団体等と連携・協議するなど、地域での重層的な見守り体制の構築に向け取り組みました。

〇お互いさま命のネットワーク活動見守り協力機関 57 事業所

２）お互いさま命のネットワーク委員会の運営

〇お互いさま命のネットワーク委員会の開催　令和６年７月 11 日　いこいの里

内　容　事業概要確認、新規協力事業所紹介、対応事例報告、意見交換

参加者　お互いさま命のネットワーク委員 10 人

〇お互いさま命のネットワーク活動に関する情報交換会

海老津校区コミュニティ健康福祉部会情報交換会　令和６年８月 31 日　東部公民館

内　容　ネットワーク・ふれあいサロンに関する各区の情報交換

参加者　健康・福祉部会約 30 人、社協職員１人など

（２）ふれあい交流活動の充実

【具体的な取り組み】

■ふれあいサロンの推進　■ふれあい交流事業の充実　■世代間交流の充実

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民同士の交流や居場所づくり、健康づくり・介護予防などを目的とした「ふれあいサロン」を推進・支援しました。

■子どもや子育て世代、高齢者、障がいのある人、外国籍の人など、様々な立場の人がさらに広い範囲で交流できる事業に取り組みました。

【主な事業】

１）ふれあいサロンの推進　重点事業

少子高齢化や核家族化の進行による住民同士のつながりが希薄化するなか、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等が地域で孤立しがちとなっており、各自治区単位での住民主体の通いの場である「ふれあいサロン」を、民生委員・児童委員等の関係者と連携して推進・支援しました。

また、社協だより等を活用して、『みなさんの地域の居場所紹介します！』の記事など、特色のある取り組みを実施している自治区を掲載することで、他の自治区にも参考となる情報提供を行いました。

〇ふれあいサロン活動支援自治区　17 自治区（R5：20 自治区）

波津、内浦、手野、三吉、上高倉、山田峠、緑ヶ丘、旭西、旭東、旭南、戸切、新海老津、海老津、上畑、野間一、野間二、野間四

○ふれあいサロン交流会

令和７年２月 28 日　参加者 47 人

自治区を超えたつながりづくりとサロン活動の活性化をめざした交流会を行いました。前半で、自治区ごとに年間スケジュールをまとめたポスターを作成して会場内に貼り出し、後半は、会場内を自由に移動して気になる情報を集めました。「すぐに取り入れられるような情報が得られた」という声がある一方で「自分たちのサロンに興味を持ってもらえて嬉しかった」という声も聞かれ、互いに高め合う雰囲気づくりができました。

また、当日参加できなかった自治区へも情報を共有するために、参加自治区の年間活動表を１冊にまとめ、全ての自治区へ配布しました。

【参加自治区】21 自治区

内浦、手野、新松原、三吉団地、高倉、上高倉、山田峠、緑ヶ丘、旭南、東松原、高陽、鍋田、西高陽、南高陽、戸切、新海老津、野間一、野間二、野間四、塚原、東高倉

２）ふれあい交流・世代間交流事業の充実

○地域ふれあい交流会「社協夏まつり」　　屋内多目的施設すぱーく岡垣

令和６年８月 24 日　参加者 550 人

地域ふれあい交流とボランティア活動等の促進を目的に、社協夏まつりを開催しました。

○障がい者クリスマス交流会（障がい児含む）　いこいの里

令和６年 12 月８日　参加者 93 人

障がい児・者の社会参加の促進とふれあい交流を目的に、障がい者団体、ボランティア団体、九州共立大学・九州女子大学の協力を得て、障がい者クリスマス交流会を開催しました。

○在宅介護者のつどい　いこいの里

令和６年 11 月 19 日　参加者 24 人

在宅介護者の心身のリフレッシュや情報交換、ふれあい交流を図るとともに、在宅介護者の会「こもれびの会」会員の増員を目的に、在宅介護者のつどいを開催しました。

○囲碁・将棋大会　いこいの里

令和７年２月 14 日　参加者 30 人

高齢者のふれあい交流と異世代間での交流を目的に、岡垣棋友会の協力のもと開催しました。

３）地域の居場所づくりへの支援　重点事業

地域生活における様々な福祉課題の解決には、これら地域の拠点である福祉施設等の事業所との連携および協働が不可欠です。地域と施設の交流と助けあいを通じた顔の見える関係づくりを支援しました。

○地域の居場所応援事業所リスト交流会

令和６年７月 20 日　参加者 50 人

自治区長や民生委員・児童委員等を中心とした地域住民と「応援事業所」として掲載している介護事業所が一堂に会し、情報交換を通して交流を深めました。地域の“やりたいこと”と各事業所の“できること”について、その場での直接の会話を通してマッチングできるため、次々と新たなつながりが実現しました。

・内浦区とスマイル岡垣　・手野区と海老津園　・緑ヶ丘区とリハデイ吉木 など

４）おもちゃ図書館の運営

障がいのある子どもや親が自由に楽しく遊ぶ場、また、同じ悩みを持つ家族が語り合える場として、おもちゃ図書館ボランティアたんぽぽの会の協力により、毎月第２土曜日・毎週木曜日（第1･3木曜日３歳までの乳幼児に一般開放）に開館しました。

開館日　60 日（うち一般開放 21 日）

利用者数

障がい者（児）：延べ 210 人・乳幼児等：延べ 57 人・家族等：延べ 176 人

見学等：延べ４人

（３）地域の多様な支えあいの促進

【具体的な取り組み】

■地域コミュニティ活動の推進　■生活支援体制の構築

■地域での健康づくり・介護予防活動の推進　■分野を超えた連携の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■住民主体の助けあいや、地域と事業者の連携など、公的サービスでは困難な課題に対して、多様な主体が参加する助けあいを推進・支援しました。

■本人、地域、事業所をつなぐ生活支援コーディネーターとしての役割を担いました。

■買い物や草取り、ゴミ出しなど、地域でちょっとした手助け（生活支援）を行うための仕組みづくりを支援し、その取組を普遍化することで、町全体へ広げました。

■町内社会福祉法人連携協議会のネットワークを活かし、制度の狭間にある課題など、地域のニーズに即した地域貢献活動の活性化を図りました。

【主な事業】

１）生活支援体制整備事業（町受託事業）　重点事業

新たな課題に取り組みたいと考えている地域や、活動がマンネリ化している地域に対して積極的に出向き、地域の居場所や支えあい活動に取り組むために丁寧な支援を行いました。また、地域の力だけではなく、社会福祉法人をはじめとする事業所とつながる様々な機会をつくることで、新たな取り組みを生み出しました。

〇話し合いの場（第１層・第２層協議体）　いこいの里

第１回：令和６年７月 20 日

内　容　地域の居場所応援事業所リスト交流会

昨年度更新した「地域の居場所応援事業所リスト」を活用し、地域の居場所（ふれあいサロン、寿会、オレンジカフェなど）に関わる地域住民と、地域との接点を求める事業所の交流を行いました。

参加者　40 人（地域住民、民生委員・児童委員、事業所［20 事業所］）

第２回：令和７年２月 22 日

内　容　１）地域の助けあいをふり返る

活動開始から約１年が経過した野間二区での生活支援「ちょこっとお助け隊ヒトトキ」、今年度から新たに始まった戸切校区と海老津園、社協での「バスでお買い物サロン（仮）」について報告を行った後に、グループ

ワークを行いました。ワークでは、①日ごろ感じている課題②今こそ必要とされている取り組み③具体的にやりたいことを出し合いました。

２）知っているようで知らない⁉民生委員・児童委員

民生委員の一斉改選を控え、推薦に関わる自治区長をはじめ地域住民の民生委員・児童委員に対する認識を高めるために、民児協会長から民生委員に関する現状や思いの話があった後、各グループで直接民生委員と意見交換を行い、交流を深めました。

参加者　59 人（自治区長、民生委員・児童委員、事業所、町民等）

○各自治区の取り組みへの支援（各区内にある小さな居場所、集まり等も含む）

情報提供および活動支援など

内浦校区／内浦、手野　★オレンジカフェ海の見える丘

吉木校区／三吉団地、三吉、高倉、上高倉　★オレンジカフェ天狗屋

海老津校区／高尾、旭西、旭中、旭東、新海老津、海老津、野間一、野間二、野間四、東高倉　★丘の上の白い美術館に住む人達　★海老津園

山田校区／山田峠、東山田、緑ヶ丘、旭南、東松原、高陽、百合ヶ丘、鍋田、西高陽、東高陽、南高陽

戸切校区／戸切、戸切百合野、戸切白谷、上海老津、龍王団地

★は自治区以外（オレンジカフェ・施設）

○福祉ツクル講座

内　容　対象地域に直接出向き、地域のペースに合わせて具体的な取り組みを創り出すことを目的に開催しました。

実　績　①野間一区：子育て世代を巻き込んだ取り組み≪継続支援≫

今年度も継続して、長期休みを活用した「ジュニア版ふれあいサロン」を子どものみの参加で実施し、地域の役員や高齢者等が見守り役となって交流を深めました。また、これまで行っていた防災訓練を子どもたちにも興味を持てる形に変えるなど、若い世代が地域行事に参加しやすいような工夫がなされています。

②野間二区：有償の助けあいの仕組みづくり≪継続支援≫

約１年間の活動で、その取り組みが確実に定着し、登録者から多くの喜びの声がありました。その一方、料金の安さとお助け会員の少なさが課題となっていますが、会議を重ねて協議し、次年度からは利用料金の改訂を行い、増額分を活動者へ配分できるような仕組みの検討を行いました。

利用会員：21 人　　お助け会員：４人

活動実績：38 件（申込みは 47 件。9 件は活動の範囲を超えており、シルバー人材センター等へつないだ）

チケット：16,000 円分販売（利用実績は 7,700 円分）

③東高倉区：有償の助けあいの仕組みづくり≪継続支援≫

区内の既存の団体「2000 年会」を中心に協議を重ね、取り組める直前のところまで来ているのですが、取り組み内容等であと一歩踏み出せずにいる現状です。今後も継続して活動開始に向けて支援します。

○事業所と地域の連携した取り組み

対　象　海老津園（事業所）×（地域）戸切校区 × 社会福祉協議会

内　容　以前からバスを活用した地域貢献活動を検討していた海老津園と、高齢者等の買い物に課題のある戸切校区とを結びつけることで、試験的に「バスでお買い物サロン（仮）」を行いました。当日は、海老津園の職員が日頃は施設の行事などで使っているバスを運転し、戸切校区の 20 人を自治区ごとに迎えに行き、イオン岡垣店へ向かいました。今回の対象者は、①ひとり暮らしの高齢者で運転免許の返納等により、自分で買い物に行くことがむずかしい方②集合時間を守り、自分で歩いて買い物をすることができる方とし、約１時間の買い物を楽しんだ参加者からはたくさんの喜びの声が聞かれました。

○町との連携および情報共有

生活支援コーディネーター連絡会への出席

本事業を活用して、地域共生社会の実現や校区コミュニティのあり方を模索するため、長寿あんしん課、福祉課、地域づくり課、社協に相談支援包括化推進員を配置し、連絡会に出席しました。

参加状況　第１回：令和６年４月 30 日　第２回：令和６年５月 28 日
第３回：令和６年６月 20 日　第４回：令和６年７月 30 日
第５回：令和６年９月 24 日　第６回：令和６年 10 月 30 日
第７回：令和６年 11 月 26 日　第８回：令和６年 12 月 26 日
第９回：令和７年１月 28 日　第 10 回：令和７年２月 25 日
第 11 回：令和７年３月 25 日　※8 月は台風のため中止

主な内容　地域情報の共有、生活支援コーディネーター業務の進捗状況、必要な社会資源の検討、話し合いの場の開催など

研修会等への出席

町の生活支援コーディネーター（長寿あんしん課）と共に研修会等へ参加し、先進的な取り組み事例等に関する情報収集を行いました。

参加状況　令和６年９月 19 日　九州厚生局地域共生セミナー（居住支援）
令和６年 11 月 22 日　8050 問題　本人・家族の心を開く支援
令和７年２月 28 日　九州厚生局地域共生セミナー（移動支援）

○地域ケア個別会議への出席

個別事例について、多職種による専門的かつ多様な視点で検討を行うことで、自立支援と重度化予防につなげることを目的とした地域ケア個別会議に出席しました。個別課題の検討を積み重ねることで地域の共通課題を把握するとともに、事例を担当する介護支援専門員と情報共有し、地域でその人の暮らしを支えるための具体的な取り組みへつなぎました。

○地域ケア個別会議（ﾘﾓｰﾄ形式）

開催日　第１回：令和６年５月 23 日　第２回：令和６年７月 25 日
第３回：令和６年 11 月 21 日　第４回：令和７年１月 23 日
第５回：令和７年３月 27 日　※9 月は中止

参加者　地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所

理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師、保健福祉環境事務所
生活支援コーディネーター 等

２）地域介護予防活動支援事業（町受託事業）

地域におけるネットワークの構築、介護予防の知識や方法を地域に普及する人材育成及び介護予防に資する地域組織（ふれあいサロン等）の支援を実施しました。

地域介護予防活動支援

・ふれあいサロン活動支援　　16 地区・２団体 33 回　参加者延べ 878 人
（R5：20 地区 2 団体 44 回　参加者延べ 878 人）

出前楽らく健康教室

・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・中央公民館：全 23 回　参加者延べ 1,213 人
　東部公民館：全 48 回　参加者延べ 3,586 人

脳若トレーニング教室　いこいの里　参加者 19 人

・講師　ＮＰＯ介護予防で日本を元気にする会
・全 12 講座（原則：7 月 12 日～10 月 18 日毎週金曜日）

介護予防サポーター養成講座　いこいの里　参加者 18 人（うち再受講 3 人）

・講師　ＮＰＯ法人北九州スポーツクラブ連絡会
・全 12 回（令和 6 年 10 月３日～令和 6 年 12 月 19 日毎週木曜日）
・内容　講話、ストレッチ体操、筋力トレーニング、実践練習等

介護予防サポーターのつどい

・第１回　令和６年８月 20 日　いこいの里　参加者 46 人
　内　容　講義・実技 「体力測定について」
　　講師　福岡県理学療法士会　久保田敦志 氏
　　運動実技　「脳トレ」
　　講師　北九州スポーツクラブ連絡会　住吉理恵 氏
・第２回　令和７年２月 13 日　いこいの里　参加者 52 人
　内　容　意見交換会
　　運動実技　「ペットボトルを使った筋力トレーニング」
　　講師　北九州スポーツクラブ連絡会　田村香代子 氏

介護予防サポーター地区活動支援　　実施自治区 11 区・１団体

ケア・トランポリン運動教室　いこいの里

・指導　日本ケア・トランポリン協会
　ケア・トランポリン運動教室
　　Ａコース　参加者 27 人　全 32 回
　　Ｂコース　参加者 35 人　全 32 回

自動血圧計・非接触型体温計貸出業務

・自動血圧計貸出８件（自治区・団体）・非接触型体温計貸出１件

３）社会福祉法人連携協議会の運営

地域貢献事業に関する研修会を開催するとともに、作業部会で地域での公益的な取り組みについて協議しました。

岡垣町内社会福祉法人連携協議会（R2.1 発足・7 法人）
参加法人　　社会福祉協議会（会長・事務局）、日本傷痍者更生会（副会長）
　　高章会（監事）、岡垣睦福祉会、つつみ会、局会、いわき福祉会
連携協議会
第１回 令和６年７月９日　いこいの里 参加者９人（事務局職員含む）
内容「令和５年度事業報告・決算」「役員・令和６年度事業計画（案）・予算（案）について」「生活支援体制整備事業・重層的支援体制整備事業について」
作業部会
第１回 令和６年 12 月 19 日　いこいの里 参加者 10 人（事務局等職員含む）
協議事項等
「地域貢献活動について」バスでお買い物サロン（社会福祉法人局会：軽費老人ホーム海老津園・戸切校区）、「DWAT（災害派遣福祉チーム）について」「研修会について」
役職員研修会
令和７年２月 15 日 いこいの里　役員７人
講演「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会について」
講師 大牟田市社会福祉協議会（事務局）
　事務局長 内田 勉 氏・事務局次長 平川聖子 氏（協議会事務局）

２．地域福祉を支える「ひと」づくり

私たちが暮らす地域には、子どもや子育て世代、高齢者、障がいのある人、外国籍の人など、様々な「ひと」がともに生活しています。しかし、何気なく毎日を過ごす中で、異なる世代や様々な立場を超えて多くの人が知り合ったり、交流を深めたりする機会は少ないのが現状です。

地域での助けあいや支えあいは、お互いに知り合い、理解し合うことから始まります。地域のことに関心を持って顔の見える関係を築き、「お互いさま」の気持ちを持って地域福祉を支えるひとづくりを進めました。

（１）福祉のこころを育む意識の醸成と啓発

【具体的な施策・事業】
■地域と学校の連携体制の推進　■福祉教育の推進
■認知症への理解の促進　■障がいのある人への差別解消の推進
【社会福祉協議会が取り組むこと】
■学校や地域と連携し、子どもたちから大人まで「ふだんのくらしのしあわせ」を実感できる福祉教育を実施しました。
■福祉教育を通じて、たくさんの人との出会いやつながりを通して、「福祉は一部の人のものではなく、誰もが身近にあるもの」という学びが、家庭や地域へと広がるよう支援しました。
■認知症サポーター養成講座をはじめ、学びの機会を通して、多様性を認め合い、誰もが自分らしく地域で共に生きるための正しい知識や理解を広めました。
【主な事業】

１）福祉教育（学校・地域）の実施

他人への思いやりや、やさしい心を育むことを目的に、小・中学校や保育所等と連携し、福祉教育を実施しました。

○福祉教育導入講座（“福祉とは”）

内浦小学校	４年生（1 クラス）	１日：１コマ	参加者 12 人
吉木小学校	４年生（2 クラス）	１日：２コマ	参加者 53 人
海老津小学校	４年生（4 クラス）	２日：４コマ	参加者 110 人
山田小学校	４年生（3 クラス）	１日：３コマ	参加者 96 人
戸切小学校	４年生（1 クラス）	１日：１コマ	参加者 12 人

○車いす体験

内浦小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人
吉木小学校	４年生（2 クラス）	２日：４コマ	参加者 50 人
海老津小学校	４年生（4 クラス）	２日：８コマ	参加者 109 人
山田小学校	４年生（3 クラス）	２日：６コマ	参加者 95 人
戸切小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人
中部保育所	３～５歳児クラス	１日：１コマ	参加者 14 人

○視覚障がい体験

内浦小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 11 人
海老津小学校	４年生（4 クラス）	２日：８コマ	参加者 102 人
戸切小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人

○手話体験（手話通訳者：石田氏・二宮氏、聴覚障がい者：太田夫妻）

内浦小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 12 人
吉木小学校	４年生（2 クラス）	２日：４コマ	参加者 53 人

○車いすユーザーとの交流（ゲスト：田原正道氏）

海老津小学校	４年生（4 クラス合同）	１日：２コマ	参加者 106 人
山田小学校	４年生（3 クラス合同）	１日：２コマ	参加者 100 人

○認知症サポーター養成講座

内浦小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 14 人
戸切小学校	４年生（1 クラス）	１日：２コマ	参加者 11 人
岡垣中学校	１年生（4 クラス）	２日：４コマ	参加者 141 人
岡垣東中学校	１年生（3 クラス）	１日：３コマ	参加者 101 人

○車いすを極めるための調べ学習のポイント

山田小学校	４年生（3 クラス）	１日：３コマ	参加者 96 人

○福祉教育読本「ともに生きる」、福祉教育教材「ともに生きる」配布

町内５年生を対象に、福祉を身近なものとしてとらえ、ともに生きる大切さを学習するための副読本として、福祉教育読本「ともに生きる」配布しました。また、福祉教育での教材として活用してもらうため、福祉教育教材「ともに生きる」を町内４年生に配布しました。（福岡県社協作成）

福祉教育読本「ともに生きる」配布数 330 冊

福祉教育教材「ともに生きる」配布数 345 冊

○福祉教育セミナー・担当者会議および福岡県福祉教育推進員連絡会への参加

セミナーや連絡会等に参加することで、他市町村との情報共有を通して新たな知識や参考となるプログラムの習得に努めました。

福岡県福祉教育セミナー・担当者会議　令和６年 12 月 25 日（ｵﾝﾗｲﾝ）

福岡県福祉教育推進員連絡会（ﾘﾓｰﾄ開催：1 回）

○芦屋町社会福祉協議会でのアドバイザー　令和６年 10 月 15 日

初めて小学校での授業を行うとの相談を受け、事前にプログラム構成や学校との連絡調整等に関するアドバイスを行うとともに、当日の授業に参加しフォローアップを行いました。

○行橋市社会福祉協議会の視察受入　令和６年 11 月 26 日

行橋市地域福祉活動ネットワーク推進協議会の視察研修を受け入れ、岡垣町社協としての福祉教育の考え方や特徴的な取り組みを報告し、情報交換を行いました。

２）認知症サポーター養成講座の実施

認知症を正しく理解し、地域でサポートができる人材づくりの講座を、行政と協働し小学生と中学生を対象に開催しました。

認知症サポーター養成講座	内浦小学校４年生（1 クラス）	参加者 14 人
	戸切小学校４年生（1 クラス）	参加者 11 人
	岡垣中学校１年生（4 クラス）	参加者 141 人
	岡垣東中学校１年生（3 クラス）	参加者 101 人

（２）地域活動を支える担い手の育成

【具体的な施策・事業】

■民生委員・児童委員の活動への支援　■地域福祉活動を担う人材の育成

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■民生委員児童委員協議会の事務局として、各委員との連携を深め、その取組を支援しました。

■地域福祉について、「知識を増やしたい」「具体的に取組を始めたい」などのニーズに応じた講座や研修会を実施し、人材の育成に取り組みました。

■講座や研修会での学びにとどまらず、受講後も参加者の地域における実践的な取組を支援しました。

【主な事業】

１）岡垣町民生委員児童委員協議会との連携強化

社協と民児協とは、地域福祉を展開していく上で協力が不可欠であり、民児協との連携を強化するため、社協が民児協の事務局を担い支援しました。

また、民生委員の一斉改選を控え、推薦に関わる自治区長をはじめ地域住民の民生委員・児童委員に対する認識を高めるために、生活支援体制整備事業の「話しあいの場」を活用して各グループで直接民生委員と意見交換を行い、交流を深めました。

２）地域人材育成事業（町受託事業）　重点事業

地域共生社会の実現に向け、すべての住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができるよう、住民に身近な圏域において、自らが地域福祉の担い手として主体的に

行動する人材育成を図ることを目的に地域人材育成講座（福祉マナブ講座）を実施しました。

■これからの暮らしを考える「福祉マナブ講座」

対象者：町内在住または町内に勤務されている方

日時	内容
【第１回】 ８月２日	テーマ　これって認知症？　物忘れ？ 講　師　医療法人光風会 宗像病院　精神保健福祉士 高杉 正 氏 参加者　42 人
【第２回】 ９月 14 日	テーマ　私の気持ちをわかってほしい 講　師　医療法人光風会 宗像病院　精神保健福祉士 高杉 正 氏 参加者　42 人
【第３回】 10 月 12 日	テーマ　こどもの虐待 ～虐待当事者の声から考える～ 講　師　自立支援ホーム職員 栗岡直也 氏 参加者　34 人
【第４回】 10 月 21 日	テーマ　子育て世代の地域のつきあい方 講　師　ファザーリングジャパン九州　理事　馬場義之　氏 参加者　20 人
【第５回】 12 月 16 日	テーマ　そうだったのか！精神疾患 ～その理解と接し方とは～ 講　師　医療法人昌和会　見立病院　副院長　熊本勝治　氏 参加者　50 人
【第６回】 1 月 16 日	テーマ　自分で守る！私の健康 ～要介護状態や認知症にならないために～ 講　師　おんが病院訪問看護リハビリステーション　士長　林 剛己　氏 参加者　37 人
【第７回】 ２月８日	テーマ　映画　子ども食堂にて 参加者　11 人
【第８回】 ３月８日	テーマ　私らしい生き方を見つけよう～地域で考える終活（集活） 講　師　終活パートナー九州　上級終活セター眞武純哉 氏 参加者　29 人

（３）ボランティア活動の推進

【具体的な施策・事業】

■ボランティアの育成・支援　　■ボランティアセンターの充実

■福祉ボランティアポイント制度の推進

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■地域の課題やニーズに基づき、必要とされるボランティアを養成し、その取組を支援しました。

■町内のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアに参加したい人と支援を求めている人をつなぐ役割を担いました。

■福祉ボランティアポイント制度の登録者、受入機関ともに、さらにボランティアの輪が広がるよう、周知・啓発を図りました。

【主な事業】

１）岡垣町ボランティアセンターの運営（町受託事業）　　重点事業

岡垣町ボランティアセンターでは、「ボランティア活動に参加したい人」と「ボランティアを必要としている人」をつなぐ場として、あらゆる機会を通して、ボランティア活動に関する住民の意識を高める取り組みを行いました。また、新たなボランティアを発掘・養成するとともに、既存のボランティアの取り組みを支援し、ボランティアに関する情報収集・提供に努めました。

○ボランティア交流会

令和７年２月 15 日　いこいの里　参加者 29 人

内容　講演：「英語の Volunteer と日本語のボランティア」

講師：北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室

准教授　アン・クレシーニ 氏

○出張ボランティア相談会

令和６年５月 22 日　中央公民館　参加者 13 人

令和６年 10 月 20 日　まつり岡垣会場内　参加者３人

令和６年 11 月 20 日　中央公民館　参加者４人

令和６年 11 月 27 日　中央公民館　参加者４人

○ボランティアセンターだよりの発行

ボランティア活動をしている現場に出向き、奇数月に発行する「岡垣町ボランティアセンターだより」を通して、ボランティア活動の普及に努めました。

発行総部数 8,370 部（6 回/奇数月：全戸配布 1,395 部）

○中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア研修会

令和６年 11 月 30 日　水巻町中央公民館　参加者 18 人

活動紹介　水巻町ともしびの会手話部×水巻第一保育所　園児による「手話歌」披露

講演　「難病がくれた宝物～自立と助け合いとは～」

講師　株式会社 PLS 代表　落水洋介 氏

○ふくおか“きずな”フェスティバル

令和７年２月 16 日　春日市クローバープラザ　参加者 19 人

・基調講演　楽しい助け合い活動！ボランティア地域活動のすすめ！

～生きがい・やりがい・楽しさ・自分発見の生き方探し～

講師　ふくしと教育の実践研究所 SORA　主宰　新崎国広 氏

・ボランティア活動別分科会

「子どもたちが活躍・輝く居場所」

「ボランティアと学ぶ・育む福祉体験」

「ふくおか“ミライ”会議～学生のボランティア活動から考える福岡の未来～」

○災害ボランティア講座

①令和６年６月 29 日　いこいの里　参加者 66 人

内容：「近年の災害発生状況と過去の災害から学ぶ災害時の備え」

「災害時の支援活動～社会福祉協議会の役割と災害ボランティアセンター～」

「まとめ～災害時、ボランティアとしてなにができるか～」

講師：福岡県社会福祉協議会　災害福祉支援センター　所長　藤本博昭 氏

○夏休みボランティア大作戦

①令和６年８月１日　いこいの里　参加者 19 人
内容：「ボランティアとは」「聞いてみよう！ボランティア」
②令和６年８月８日　いこいの里　参加者 18 人
内容：「SDGs をたのしく学ぼう！」
③令和６年８月 22 日　いこいの里　参加者 15 人
内容：「SDGs の振り返り」「壁新聞作成」「修了式」

○岡垣町ボランティアクラブ

① ボランティアクラブ説明会
令和６年５月 11 日　いこいの里　参加者 15 人（会員 14 人、保護者 1 人）
内容：「岡垣町ボランティアクラブの概要について」「今年度の予定について」
「ボランティア活動保険について」

②ボランティアクラブの活動状況

・千羽鶴作成
令和６年８月１日～８月 31 日　いこいの里
参加者 16 人（ボランティアクラブ 12 人、ボランティア登録団体 4 人）
内容：千羽鶴を綴る作業

・社協夏まつり
令和６年８月 24 日　いこいの里　屋内多目的施設すぱーく岡垣
参加者 68 人（ボランティアクラブ 18 人、ボランティア登録団体 50 人）
内容：ゲーム運営補助、おもちゃコーナー、軽食コーナー、
ステージイベント補助、横断歩道補助、駐車場補助

・まつり岡垣
令和６年 10 月 20 日　岡垣サンリーアイ
参加者 52 人（ボランティアクラブ 22 人、ボランティア登録団体 30 人）
内容：赤い羽根共同募金運動の支援（ポップコーン・風船配り・会場内街頭啓発）

・令和７年岡垣町二十歳式
令和７年１月 12 日　岡垣サンリーアイ　参加者 20 人
内容：配布物の袋詰め作業、二十歳式及び来場者の受付

・ボランティア交流会の開催
・ボランティア講座の開催（災害ボランティア）
・ボランティア育成講座（小中学生）
・ボランティアクラブの育成・活動推進

・ボランティアセンターに登録しているボランティア 42 団体に対して、ボランティア活動を支援しました。

○その他

① 環境保全リーダー養成講座（岡垣町地域づくり課 主催事業）

・令和７年２月１日（土）13：00～16：00　中央公民館　大会議室
第１部　講　　演：「ホップを活用した SDG’s まちづくり」
講　　師：響灘ビオトープ　園長　安枝 裕司　氏
第２部　ワークショップ：「次世代に残したい岡垣町の自然」

コーディネーター：岡垣緑のまちづくりの会 会長 小島俊哉　氏
※第２部のファシリテーターとして参加

３．地域でともに生きる「環境」づくり

全ての人が年齢や状況を問わず、地域で安心して暮らすためには、一人ひとりの状況や必要性に応じて適切なサービスや支援を受けることができる環境を整備することが不可欠です。そのために、まずは気軽に相談できる体制やきめ細かな情報提供を充実させることが必要です。

一方で、公的な制度やサービスに限らず、地域の柔軟な力を活かして様々な関りを持ち、交流できるような地域福祉の拠点づくりを支援するなど、地域でともに生きる環境づくりを進めました。

（１）きめ細かな情報提供と相談支援体制の充実

【具体的な施策・事業】

■相談支援体制の充実　　■広報広聴機能の強化

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■子どもや高齢者、障がいのある人や外国籍の人、生活に困窮した人などその属性を問わず、総合福祉相談窓口として受け止める体制づくりに努めました。

■総合福祉相談窓口として、解決可能な相談については迅速に対応するとともに、社協だけでは困難な相談については、他の職種や機関へつなぎ、連携して解決を図りました。

■相談を待つだけではなく、地域に出向く機会を活用して積極的に相談を受け入れる場を設けました。

■全国の先進事例や町内での優れた取組を把握し、社協だよりやホームページを活用して情報発信に努めました。

■様々な世代に対応できるよう、ＳＮＳなどを活用した新たな情報発信について検討しました。

１）相談支援体制の充実（総合福祉相談窓口・法律相談）

子どもや高齢者、障がいのある人や外国籍の人、生活に困窮した人などその属性を問わず、総合福祉相談窓口として受け止める体制づくりに努めました。

・総合福祉相談窓口、法律相談

社協は、現在の法律や制度で定められた福祉サービスに対する福祉課題や、高齢者の買い物など日常生活上起こり得る生活課題について、地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制の構築に取り組みました。

・総合福祉相談窓口

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、国や県、町の動向を把握し、法令や制度を網羅した手引きを活用し、すべての職員が対応できるように、職員間の情報共有に努めました。

総合福祉相談窓口（毎月２回・いこいの里）、電話受付等

総合福祉相談 729 件（R5：703 件）

・法律相談

地域における困りごとの相談を受け入れ、総合的にコーディネートする体制を構築するために、職員の資質向上や分かりやすい情報提供に努め、法律相談を開催しました。

法律相談（弁護士・いこいの里） 14 回・77 件（R5：13 回・76 件）

２）広報広聴機能（社協だより・ホームページ）の強化

〇社協だよりの充実

社協の広報紙社協だよりを町内全戸に配布し、社協の事業や地域の福祉活動等の記事を掲載し、事業の普及・啓発に努めました。

発行総部数 81,500 部（6 回／奇数月：全戸配布）

〇社会福祉協議会ホームページ

社会福祉協議会の活動内容やいこいの里入浴施設のＰＲ等、掲載内容の充実を図るとともに常に新しい情報を公開するように努めました。

〇ボランティアのススメ、ボラセンだよりの発行

広報おかがきにボランティアのススメを毎月掲載し、ボランティアの情報を発信しました。また、社協だより発行月にボラセンだよりを発行し、ボランティアセンターの活動を詳しく町民に伝えることができるよう努めました。

３）重層的支援体制整備事業の実施（町受託事業） 重点事業

児童や高齢者、障がいのある人、生活困窮など、個人や世帯が複数の課題を抱える場合や、制度の狭間にある課題を抱える場合、支援する側が自分の分野の壁を越えて受け止めることで、専門職や地域が連携して継続的に関わっていく必要があります。社会福祉協議会が併せ持つ「個別事例への直接的な支援機能」と「地域づくりを推進する機能」の２つの特徴を生かし、課題を整理して方向性を定め、関係機関や地域の方などと連携した取り組みを進めました。また、複合的な課題を抱える個別課題への適切な対応と充実した相談支援体制づくりを推進するため、関係機関等による横断的な支援ネットワークの構築を進めました。

・支援会議および重層的支援会議の開催、支援計画の策定

・アウトリーチ等を通じた継続的支援など

〇重層的支援体制整備事業（町受託事業）

児童や高齢者、障がい者、生活困窮など、個人や世帯が複数の課題を抱える場合や制度の狭間にある課題を抱える場合、支援する側が自分の分野を超えて受け止め、専門職や地域が連携して継続的に関わっていく必要があります。重層的支援体制整備事業の実施にあたり、複合的な課題を抱える個別課題への適切な対応と充実した包括的な支援体制づくりを推進するため、引き続き関係機関や新たなつながりを構築した支援機関等との横断的な支援ネットワークづくりに取り組みました。

〇コアメンバー会議（定例毎月１回） 岡垣町役場

出席者：長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、福祉課・社協（事務局）

内　容：各課や社協に相談のあったケースの中で、多問題や複雑化している世帯の情報を共有、今後の支援の方向性を協議しました。世帯の状況によっては、課題の解きほぐしや支援の役割分担が必要な場合モデルケースとし、それ以外はコアメンバー会議にて経過を観ていくケースに分けました。モデルケースについては

随時、支援会議や重層的支援会議の開催を検討しました。

○重層的支援会議

令和６年６月 20 日　いこいの里

テーマ：病識がないため医療との関りが全くなく、攻撃的な言動で家族が疲弊しているケース（前年からの継続ケース）

参加者：福祉課、長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、社協（事務局）保健師（宗像・遠賀保健福祉環境事務所）、看護師（訪問看護）

令和６年 12 月 17 日　いこいの里

テーマ：病識がないため医療との関りが全くなく、家族を含む人との関りを拒んでいるケース（6 月と同じケース）

参加者：福祉課、長寿あんしん課、子育てあんしん課、こども未来課、社協（事務局）保健師（宗像・遠賀保健福祉環境事務所）、看護師（訪問看護）

○各種研修会

令和６年５月 12 日　市町村地域福祉計画・重層的支援体制整備に関する研修
参加者：社協２人・福祉課１人

令和６年６月 28 日　市町村セミナー
（ひきこもり状態にある本人及び家族に対する支援）
参加者：社協２人・長寿あんしん課１人・
アバター個別相談実践セミナー
参加者：社協１人

令和６年７月３日　ひきこもり支援者研修会
参加者：社協１人

令和６年７月 31 日～８月１日　生きづらさを抱える人々への支援　～子どもから大人まで～
参加者：社協１人

令和６年９月 27 日　中間・遠賀圏域若者自立支援機関連携会議
参加者：社協１人

令和６年 12 月６日　福岡県ひきこもり支援者等地域ネットワーク会議（宗像・遠賀地域）
参加者：社協１人

令和７年１月 30 日　宗像・中間地区こころの健康づくり講演会
参加者：社協１人

■関連委員会への出席

岡垣町児童家庭支援ネットワーク（要保護児童対策地域協議会）

令和６年５月 24 日　代表者会議・実務者会議　参加者：社協２人

令和６年 10 月 25 日　実務者会議　参加者：社協１人

令和７年２月 21 日　実務者会議　参加者：社協１人

（２）福祉サービスの充実と基盤の整備

【具体的な施策・事業】

■いこいの里の運営　■地域福祉を支える財源などの確保

■福祉サービスの提供

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■共同募金運動を推進し、貴重な財源をより効果的に活用するため、募金配分事業が地域支援や課題の解決につながるよう努めました。

■従来の分野では対応できない地域の問題や、制度の狭間にある複雑な課題に対し、地域での有償サービスなどを含めた福祉サービスの開発に努めました。

■指定管理者として、いこいの里の積極的な周知・啓発に努め、利用者の増員に努めました。

【主な事業】

１）いこいの里の運営（指定管理期間：令和３年度～令和７年度） 重点事業

令和６年１月から 11 月まで、入浴開始時間を午前 11 時から午後３時としたため、浴室利用者が約５千人減員しました。

≪いこいの里施設利用状況≫

区 分 ＼ 年 度	令和６年度	令和５年度
施設利用者（利用率）	99,596 人（60.0%）	106,460 人（60.8%）
ふれあい館利用者 （浴室施設利用者は除く）	23,176 人	26,354 人
浴室施設利用者	35,639 人	40,670 人

利用率：使用日/開館日

※R6.1～R6.11 入浴開始時間午後３時・R6.12～入浴開始時間午後１時

○ふれあいイベント

令和６年７月６日七夕まつり、10 月 12 日秋まつり、令和７年１月 11 日新春ふれあいイベント、３月８日ひな祭りを開催しました。

２）共同募金運動の推進

共同募金会岡垣町支会と連携・協力し、共同募金運動を推進しました。

募金実績　共同募金　4,971,922 円（R5：5,285,926 円）

　　歳末募金　　487,000 円（R5：486,790 円）

３）介護保険等サービスの質の向上（令和７年３月 31 日介護事業廃止）

○居宅介護等事業

介護保険制度で要介護等と認定された高齢者や、障害者総合支援法における障害支援区分の判定を受けた利用者に対して、介護事業を実施しました。

収入　居宅介護支援事業　　5,857,720 円（R5：7,843,400 円）

　　訪問介護等事業　　43,879,865 円（R5：54,038,962 円）

○入浴サービス事業

利用者なし。

○福祉機器貸与事業

福祉機器を貸与することで、在宅の高齢者や障がいのある人等に日常生活の利便性の向上が図れるように支援しました。

≪福祉機器貸与延台数≫ 延べ 137 台

車いす	114 台	ベッド	0 台	歩行器（車）	11 台
ポータブルトイレ	3 台	シャワー椅子	7 台	介助バー	0 台
入浴用踏み台	1 台	シャワーキャリー	1 台	オーバーテーブル	0 台

○福祉車両貸与事業

高齢や障がい等のため車いすを使用しなければ外出ができない人等の福祉の増進を図るため、社協所有の福祉車両（車いす対応）の貸与事業を実施しました。

４回（R5：13 回）

○コミュニティ車両貸与事業

ボランティア活動や地域コミュニティ活動を支援するため、軽トラックの貸与事業を実施しました。

３地区：８回・２団体・２回（R5：2 地区・3 回）

○配食サービス事業（町受託事業）

調理・配食ボランティアやシルバー人材センター等への業務委託により、週５回（火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日）の 251 日配食サービス事業を実施しました。

配食サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために交通安全講習を開催しました。

令和６年５月 22 日　いこいの里　参加者９人

内容　「交通安全講習」 講師 折尾警察署職員

≪配食サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R6 計	R5 計
配食日数	21	23	21	22	19	20	23	22	20	20	19	21	251	256
配 食 数	1,696	1,813	1,731	1,722	1,501	1,628	1,923	1,908	1,718	1,652	1,665	1,845	20,802	22,152
平均配食数	81	79	82	78	79	81	83	87	86	83	88	88	83	87

○手話通訳者派遣事業（町受託事業）

聴覚障がい者、音声・言語障がい者の日常生活や社会生活におけるコミュニケーションを支援するために、手話通訳者を派遣しました。

≪コミュニケーション支援状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R6 計	R5 計
利用者数	11	11	7	10	17	17	16	18	10	8	15	12	152	142
派遣者数	11	11	7	10	17	17	15	18	10	7	14	11	148	141

（３）人にやさしい生活環境づくり

【具体的な施策・事業】

■地域福祉の活動拠点づくり　　■移動手段の確保

■ユニバーサルデザインの推進と啓発

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■地域の自治公民館や空き家などを活用し、「高齢者」「子ども」など対象を限定した取

組だけではなく、世代や立場を超えて互いに多様性を認め合い、交流を深めるような取組や居場所づくりを進めました。

■地域での助けあいによる有償サービスや、地域と事業者の連携による新たな移動支援など、地域の中の多様な主体をつなぎ、地域課題に取り組むことを支援しました。

【主な事業】

１）地域福祉の活動拠点づくりの取組

地域の自治公民館や空き家などを活用し、「高齢者」「子ども」など対象を限定した取組だけではなく、世代や立場を超えて互いに多様性を認め合い、交流を深めるような取組や居場所づくりを進めました。

○移動支援サービスの実施（町受託事業）

低所得で車いすや常時つえが必要な高齢者や障がい者の福祉向上及び社会参加の促進・支援として、送迎ボランティアの協力のもと送迎サービス事業を実施しました。

送迎サービス事業に必要な知識を習得することにより、送迎サービス事業で活動するボランティアが安全・安心して活動できることを支援するために研修会を開催しました。

令和６年５月 22 日　いこいの里　参加者 14 人

内容　「交通安全講習」「福祉用具について」　講師 折尾警察署職員

≪送迎サービス利用状況≫

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R6 計	R5 計
送迎回数	19	21	22	14	21	22	20	20	17	17	15	25	233	271
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動人員（延）	46	50	50	39	45	51	48	44	42	42	36	51	544	581

４．誰もが安心して暮らせる「体制」づくり

災害は、ある日突然に起こるものであり、日頃からの備え（自助）や地域内での支えあいや助けあい（互助）が重要です。災害時や緊急時に適切に対応できるように地域で行政と連携し、支援が必要な人の把握や地域での見守り体制の強化に取り組みました。

また、生活に困窮した人や制度の対象とならない制度の狭間にある人への支援をはじめ、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な「権利擁護」を必要とする人への支援など、誰もが安心て暮らすこことができる体制づくりを進めました。

（１）災害時・緊急時の助けあいの仕組みづくり

【具体的な施策・事業】

■避難行動要支援者支援体制の確立　■自主防災組織の育成

■災害ボランティアセンターの設置　■福祉避難所の整備

【社会福祉協議会が取り組むこと】

■町と連携して災害ボランティアセンターの設置や運営訓練を実施するとともに、他市町村社会福祉協議会との広域的な連携を図りました。

■福祉的な配慮が必要な場合は、福祉避難所を設置し、適切に運営しました。

【主な事業】

１）災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

２）災害時の広域的な連携体制の強化
３）福祉避難所の設置・運営
■災害ボランティアセンター運営　　■福祉避難所運営
　災害時や緊急時に適切に対応できるように、「災害ボランティアセンター運営」や「福祉避難所運営」の訓練等を行政と連携して実施しました。

【主な事業】

１）災害ボランティアセンターの設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターの設置については、町と協定を締結しています。運営訓練については、中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会主催の「災害ボランティアンターの設置・運営研修に役職員が参加することとしていましたが、能登半島地震の影響により、次年度の開催となりました。

２）災害時の広域的な連携体制の強化

災害時において、効率的・効果的に災害ボランティア活動などの被災者支援活動を行えるように、広域的な災害支援協定を締結し、連携しています。

３）福祉避難所の設置・運営

福祉避難所立上げシュミレーション研修に参加しました。
令和７年２月 14 日　水巻町いきいきほーる　職員３人
内　容：福祉避難所立上げシュミレーション
講　師：社会福祉法人リデルライトホーム
　　事務局長　木村准治 氏

（２）自立を支えるための支援

【具体的な施策・事業】
■生活に困窮した人の自立支援　　■更生保護活動の支援
【社会福祉協議会が取り組むこと】
■ふくおかライフレスキュー事業に参加し、生活困窮者の自立を支援するネットワークつくりを進めました。
■福岡県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業を通じて、生活困窮の社会的、経済的自立を支援できるよう努めました。
■対象者の世帯状況等に応じて、子ども食堂などと連携した支援を行いました。

【主な事業】

１）ふくおかライフレスキュー事業　重点事業

ふくおかライフレスキュー事業は、高齢者の介護･障がい児者への支援･児童の養育等、さまざまな専門性を備え長年に渡り地域で福祉を支えてきた社会福祉法人が、地域の課題に向き合い、訪問・相談を通じて、困りごとが解決できるよう支援を行う社会貢献の取り組みです。岡垣町からは３法人５事業所が参加し、事案が発生した場合に速やかに対応できるよう勉強会を開催しました。令和６年度は、生活福祉資金や生活保護など、他制度で対応したため、ライフレスキューの援助に発展する相談はありませんでした。
参加法人　社会福祉協議会、日本傷痍者更生会（恵の家、希望舎、報恩母の家）
　　岡垣睦福祉会

○実績　ふくおかライフレスキュー事業０件（R5：0 件）
○ライフレスキュー勉強会
　令和７年２月１９日（水）　いこいの里
　内　容：ふくおかライフレスキュー事業の概要について
　講　師：共生の里　ゆくはし生活相談センター　主任相談支援員　西 賢治 氏
　参加者：15 人（日本傷夷者更生会、岡垣睦福祉会、いわき福祉会、社協）

２）生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）　重点事業

景気低迷や新型コロナウイルス感染症が原因による離職や母子世帯等で生活に困窮している方等の相談を行い、貸付要件に該当している場合は、生活福祉資金の貸付により、自立更生の支援をしました。また、生活福祉資金特例貸付償還期間中における借受人世帯への相談支援を行いました。

　相談件数：63 件（R5：53 件）
　貸付件数：17 件（R5：27 件）
　◎緊急小口資金：９件　838,000 円
　　内訳（生活保護つなぎ：3 件、初任給つなぎ：5 件、災害援護支援：1 件）
　◎教育支援資金：６件　2,115,000 円
　　内訳（教育支援費：3 件、就学支度費：3 件）
　◎福 祉 資 金：２件　314,000 円
　　内訳（生活保護受給者生活必需品：2 件、技能習得費：1 件）

３）子ども食堂との連携

日本財団などの支援の情報の周知や、セブンイレブン・国民共済 coop などの寄贈の仲介役として積極的に取り組み、お米や食品・雑貨などの分配を行いました。

（３）権利擁護を必要とする人への支援

【具体的な施策・事業】
■成年後見制度の普及と利用促進　■金銭管理に不安を抱える人への支援
■死後事務の支援　■虐待やＤＶ被害の防止対策

【社会福祉協議会が取り組むこと】
■日常生活を送る上で、十分な自己決定や意思表示が困難な人も地域で安心して生活ができるよう、福岡県社会福祉協議会が行う日常生活自立支援事業を通して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。
■複合的な課題を抱えて後見人の選定が困難な人や身寄りのない高齢者などの権利擁護のため、法人後見事業に取り組みました。
■ずっと安心プラン事業（葬儀・納骨・残存家財処分などの死後事務委任）の充実に努めました。

【主な事業】

１）法人後見事業　重点事業

認知症高齢者や障がいのある人で、意思決定が困難な方や判断能力の不十分な人が地域で安心して生活が送れるよう、岡垣町社会福祉協議会が成年後見人等となり、成年被後見人等の身上監護と財産管理を行いました。受任件数１件（類型：保佐類型）

○成年後見運営委員会

成年被後見人等の権利を擁護するとともに、法人後見事業の適正な運営を確保するため運営委員会を開催しました。

成年後見運営委員会　令和６年７月 11 日　いこいの里　法人後見業務報告等

○その他研修会への参加

成年後見制度利用促進研修会（町主催）、権利擁護関連研修会（県社協主催）等

２）日常生活自立支援事業（県社協受託事業）　重点事業

認知症、知的障がい、精神障がい等により福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等に不安がある人を対象に、本人の自立に向け「福祉サービス利用援助」「日常的な金銭管理」などの支援を行いました。

日常生活自立支援事業契約者 19 人、支援件数延べ 353 件

（R5：契約者 24 人、延べ 273 件）

３）ずっと安心プラン事業　重点事業

高齢者や障がいのある人などが安心して生活できるよう、社協が事前に預託金を預かり、葬儀・家財処分などのサービスや定期的な見守りなど行う「ずっと安心プラン事業」の周知啓発を行うため、終活に関する各種相談受付や終活セミナー開催など事業ＰＲに取り組みました。

○契約者４人、終活相談延べ 52 件（R5：56 件）

○終活セミナー　いこいの里

講　師　終活パートナー九州　上級終活カウンセラー 眞武純哉 氏

第１回　令和７年１月 29 日　参加者 25 人

講　演　「今をより良く生きるために

～身元保証や財産管理、亡くなった後の諸手続き～」

第２回　令和７年２月 12 日　参加者 33 人

講　演　「予知・建物の相続登記義務化～遺言書の必要性～」

≪法人としての取り組み≫

【具体的な施策・事業】

■行政、関係機関・団体との連携

共に生きる地域づくりのためには、地域福祉の理念や情報を共有しながら役割を分担しつつ、それぞれが協働・連携して積極的に地域福祉活動を行うことができるように、行政や関係機関・団体と連携を図りした。

■役員体制および事務局体制の充実

社会福祉協議会が地域福祉を推進するうえで、法人としての組織および経営等の運営を含めた研修を開催します。また、職員の資質と能力の向上を図るため、必要な知識や経験を養うための研修会への参加や研修会を開催しました。

■制服・体操服リユース事業

不要になった「中学校の制服」や「小・中学校の体操服」を集め、必要な児童・生徒への橋渡しをすることで、子どもたちの物を大切にする心を育むとともに、子育て世帯の経済的負担軽減と地域の資源循環を目指しました。

受領した件数：30 件（R5：15 件）
提供した件数：49 件（R5：37 件）
【具体的な取り組み】
■行政、関係機関・団体との連携強化
■役員体制および事務局体制の強化
○社会福祉協議会役員体制の強化
研修会等へ役職員が参加しました。
中間・遠賀地区社協連絡協議会役職員研修会
令和６年４月 12 日　遠賀町中央公民館　役員８人
テーマ「災害ボランティアセンターの設置・運営について」
講師 NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク
理事長 李 仁鉄 氏
役員視察研修
令和６年 10 月８・９日
美祢市社会福祉協議会（山口県美祢市）
生活支援体制整備事業・重層的支援体制整備事業、子どもの居場所等
夢のみずうみ村防府デイサービスセンター（山口県防府市）
地域の居場所づくり等
令和６年福岡県社会福祉大会
令和６年 10 月 29 日　春日市クローバープラザ　役員８人
記念講演　孤独・孤立問題の現状と「伴奏型支援」～誰もが「生きること」を諦めなくていい地域共生社会の実現に向けて～
講師　同志社大学 社会学部 社会福祉学科　教授 空閑浩人 氏
令和６年度中間・遠賀地区社協連絡協議会役員・職員研修会
令和７年１月 25 日　水巻町中央公民館　役員９人、評議員８人、職員５人
講演「地域共生社会の実現に向けて」
講師 公立大学法人 福岡県立大学 人間社会学部 社会福祉学科　教授 村山浩一 氏
令和６年度社会福祉法人監事及び会計責任者研修
令和７年１月 30 日　いこいの里　監事２人
研修方法 Web 会議システム「Zoom」を使用したオンライン研修
講義Ⅰ「監事の役割と責任」
講師 ㈱佐々木総研　代表取締役社長 佐々木 大 氏
講義Ⅱ「監事監査の基本的な考え方と実務の進め方やチェックポイント」
講師 ㈱佐々木総研　部長代理 峯 良輔 氏
岡垣町内社会福祉法人連携協議会研修会
令和７年２月 15 日 いこいの里　役員７人
講演「大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会について」
講師 大牟田市社会福祉協議会
事務局長 内田 勉 氏・事務局次長 平川聖子 氏（協議会事務局）
○社会福祉協議会事務局体制の強化

職員の資質の向上や業務量に応じた適切な職員の配置など、より一層の事務局体制の強化を図るとともに、多様な福祉ニーズに対応できるように、職員の自主的な勉強会や情報交換会を開催しました。

社協の事業展開を迅速かつ効率的に行うため、毎月定例会議（係長以上）を開催しました。

市町村社協事務局長会議（福岡県社協主催）　春日市クローバープラザ

令和６年７月 17 日　事務局長

社会福祉協議会を取り巻く状況、県社協第１次活動推進計画の概要、新型コロナ特例貸付債権管理事務費活用による生活困窮者支援の取組強化、重層的支援体制整備事業と市町村社協の取組、福祉教育の推進、地域における公益的な取組、日常生活自立支援事業利用料の見直しとキャッシュレス決裁、協働型災害ボランティアセンター設置に向けた体制づくり、意見交換

説明等：福岡県社協職員

職員研修会（職員・嘱託職員）

令和６年 11 月 20・21・22 日　岡垣町役場　職員９人

人権に関する研修

講師　元岡垣町職員 太田周二 氏

令和７年１月 29・30・31 日　岡垣町役場　職員 10 人

ハラスメント防止研修

講師　㈱インソース 講師 皆川博伸 氏

カスタマーズハラスメント対応

講師　岡垣町職員

〇制服・体操服リユース事業

不要になった「中学校の制服」や「小・中学校の体操服」を集め、必要な児童・生徒への橋渡しをすることで、子どもたちの物を大切にする心を育むとともに、子育て世帯の経済的負担軽減を図りました。

受領実績 49 件・提供実績 30 件

〇屋内多目的施設すぱーく岡垣改修工事

すぱーく岡垣の外壁、屋根点検口取付等の改修工事を実施し、メンテナンスの向上と施設の延命を図りました。

財源：17,809,000 円（日本財団 10,000,000 円・岡垣町 7,809,000 円）

〇その他の事業

屋内多目的施設すぱーく岡垣改修工事

屋内多目的施設すぱーく岡垣の安全性・安定性を最大限に確保するとともに、各種劣化を改善し、今後数十年に亘り、幅広く利用される施設を目指すため改修工事を実施しました。財源：日本財団・岡垣町

社協会長表彰

社会福祉の増進に努め、その功績が顕著な人に対し、表彰状及び感謝状を贈呈しました。

令和６年８月 24 日　いこいの里

被表彰者：20 人・１団体

社会福祉事業特別功労者 14 人、社会福祉事業協力者６人、特別表彰（寄附）１団体
実習生・職場体験受入
実習生：福岡医健・スポーツ専門学校
令和６年９月 13 日　４人・９月 18 日　３人
職場体験
岡垣中学校２年生　令和６年９月５・６日　２人
岡垣東中学校２年生　令和６年９月 11・12 日　２人

助成事業

児童養護施設や要援護児童等に対し、助成金を交付しました。

≪活動助成金交付内容≫

・児童養護施設報恩母の家（交流会等）
・自転車通学生ヘルメット購入費補助
岡垣中学校 21 人、岡垣東中学校 48 人
・修学旅行費補助（要保護･準要保護等の児童･生徒を対象）
岡垣中学校 19 人、岡垣東中学校 13 人、内浦小学校 2 人、吉木小学校 8 人
海老津小学校 11 人、山田小学校 20 人、戸切小学校 4 人
・特別支援学級運営費補助
岡垣中学校 19 人、岡垣東中学校 12 人、内浦小学校 3 人、吉木小学校 15 人
海老津小学校 27 人、山田小学校 30 人、戸切小学校 3 人
・通級指導学級運営補助
岡垣中学校 20 人、海老津小学校 12 人、山田小学校 12 人

歳末たすけあい事業

在宅で生活している重度の障がい者（児）や施設入所者に、歳末見舞金を配布しました。また、ひとり暮らし高齢者等へ年賀状を送る事業を実施する自治区（要申請）を対象に、年賀はがきを配布しました。

在宅の重度障がい児・者（歳末見舞金）	45 人
障害者支援施設「希望舎」入所者（歳末見舞金）	42 人
障害者支援施設「こすもす園」入所者（歳末見舞金）	48 人
共同生活援助施設「あゆみヶ丘」入所者（歳末見舞金）	30 人
児童養護施設「報恩母の家」入所者（歳末見舞金）	54 人
年賀はがきの配布（25 自治区）	1,015 枚

各会議開催状況

理事会・評議員会開催状況

＜理事会＞

第１回	４月 16 日	議案第１号	理事選任候補者の推薦について
		議案第２号	評議員選任候補者の推薦について
		議案第３号	第１回評議員選任・解任委員会の開催について
		議案第４号	第１回評議員会の開催について
第２回	６月７日	議案第５号	理事選任候補者の推薦について

		議案第６号	障害の表記を改めることに伴う関係規程等の整理に関する規程の制定について
		議案第７号	定款施行細則の一部を改正する細則
		議案第８号	指定障害福祉サービス事業所いこいの里ホームヘルパーステーション運営規程の一部を改正する規程
		議案第９号	指定障害福祉サービス（同行援護）事業所いこいの里ホームヘルパーステーション運営規程の一部を改正する規程
		議案第 10 号	事務局規程の一部を改正する規程
		議案第 11 号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第 12 号	指定訪問介護事業所運営規程及び福岡県介護保険広域連合訪問型サービス事業所運営規程の一部を改正する規程
		議案第 13 号	令和６年度社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会会長表彰及び感謝の対象者の決定について
		議案第 14 号	令和５年度事業報告について
		議案第 15 号	令和５年度収入支出決算
		議案第 16 号	第２回評議員会（定時評議員会）の開催について
第３回	9 月 26 日	議案第 17 号	社会福祉法人岡垣町社会福祉協議会介護事業の廃止について
		議案第 18 号	屋内多目的施設すぱーく岡垣設置及び施設管理運営に関する規程の一部を改正する規程
		議案第 19 号	屋内多目的施設すぱーく岡垣改修工事にかかる入札執行について
第４回	11 月 22 日	議案第 20 号	屋内多目的施設すぱーく岡垣改修工事請負契約の締結について
第５回	2 月 13 日	議案第 21 号	理事選任候補者の推薦について
		議案第 22 号	定款の一部を改正する定款
		議案第 23 号	定款施行細則の一部を改正する細則
		議案第 24 号	介護事業の廃止に伴う関係規程等の整理に関する規程の制定について
		議案第 25 号	就業規則の一部を改正する規則
		議案第 26 号	職員給与規程の一部を改正する規程
		議案第 27 号	令和６年度補正予算（第１号）
		議案第 28 号	第３回評議員会の開催について
第６回	3 月 18 日	議案第 29 号	嘱託及び臨時職員就業規程の一部を改正する規程
		議案第 30 号	職員給与規程の一部を改正する規程
		議案第 31 号	役員等賠償責任保険の加入について
		議案第 32 号	令和６年度補正予算（第２号）
		議案第 33 号	令和７年度事業計画について
		議案第 34 号	令和７年度予算
		議案第 35 号	第４回評議員会の開催について

＜評議員会＞

第１回	４月 25 日	議案第１号	理事の選任について
第２回	６月 25 日	議案第２号	理事の選任について
		議案第３号	令和５年度事業報告について
		議案第４号	令和５年度収入支出決算

第３回	2 月 27 日	議案第５号	理事の選任について
		議案第６号	定款の一部を改正する定款
		議案第７号	令和６年度補正予算（第１号）
第４回	3 月 26 日	議案第８号	令和６年度補正予算（第２号）
		議案第９号	令和７年度事業計画について
		議案第 10 号	令和７年度予算